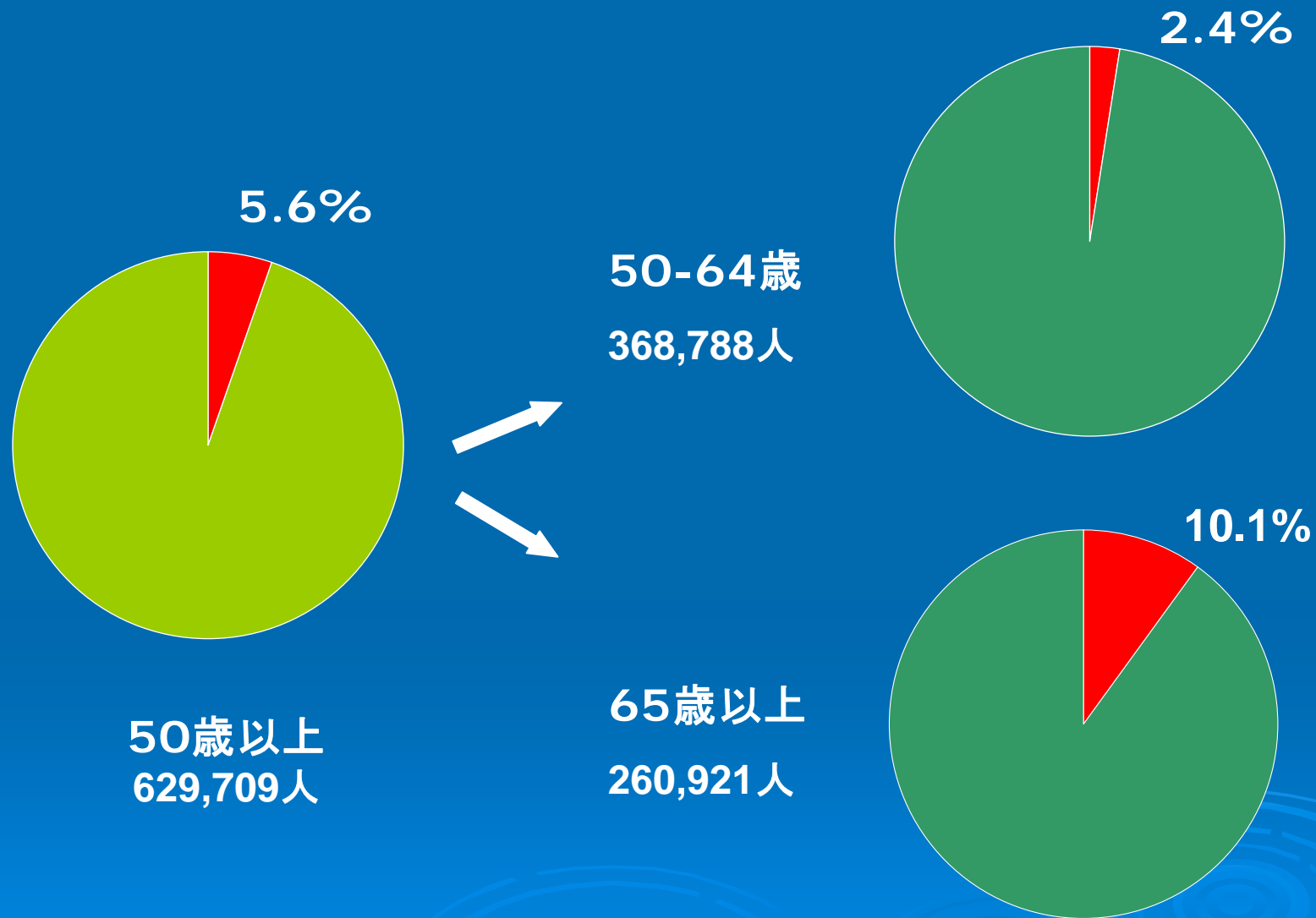


# 診診・病診連携による早期前 立癌の発見と治療

たけだ泌尿器科クリニック

武田光正

# PSA検診受診率(対人口)



H17.1.1 人口

# 当院での前立腺癌 2 次検診

PSA検診（1次検診）



- ◆直腸診
- ◆経直腸エコー
  - 前立腺重量
  - 前立腺内部のエコー像

診診連携

2次スクリーニング



前立腺針生検

確定診断



CT, MRI, 骨シンチ

病期診断

病診連携

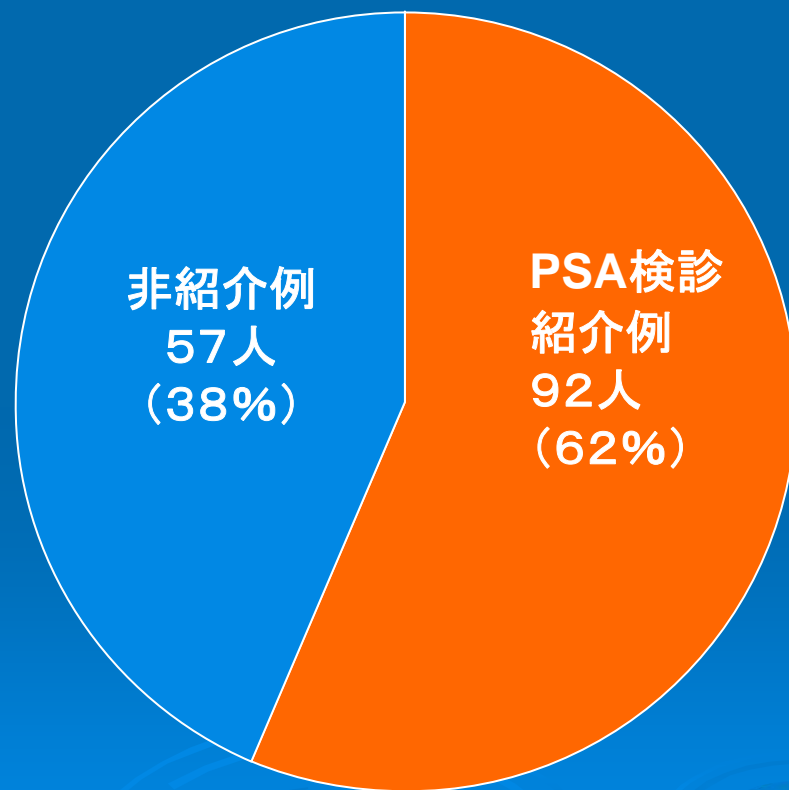
# 前立腺生検を勧めるときの方針

- グレイゾーン(PSA4-10ng)でおおむね 20-30%の確率で癌が発見されることを告知する
  - F/T比が15%、PSADが0.25以上では絶対的適応
  - F/T比が20%、PSADが0.175以上では相対的適応
  - グレーゾーンでも経直腸エコーで疑わしいときは積極的に生検を進める
- 触診で硬結がふれるときはPSAに関係なく生検が必要
- PSA>10にはより積極的に生検を勧める
- 入院での生検を希望するかを確認する
- 年齢が70歳未満の人には積極的に、80歳以上の人には高分化型の癌が大半であることを話し、消極的に生検を勧める

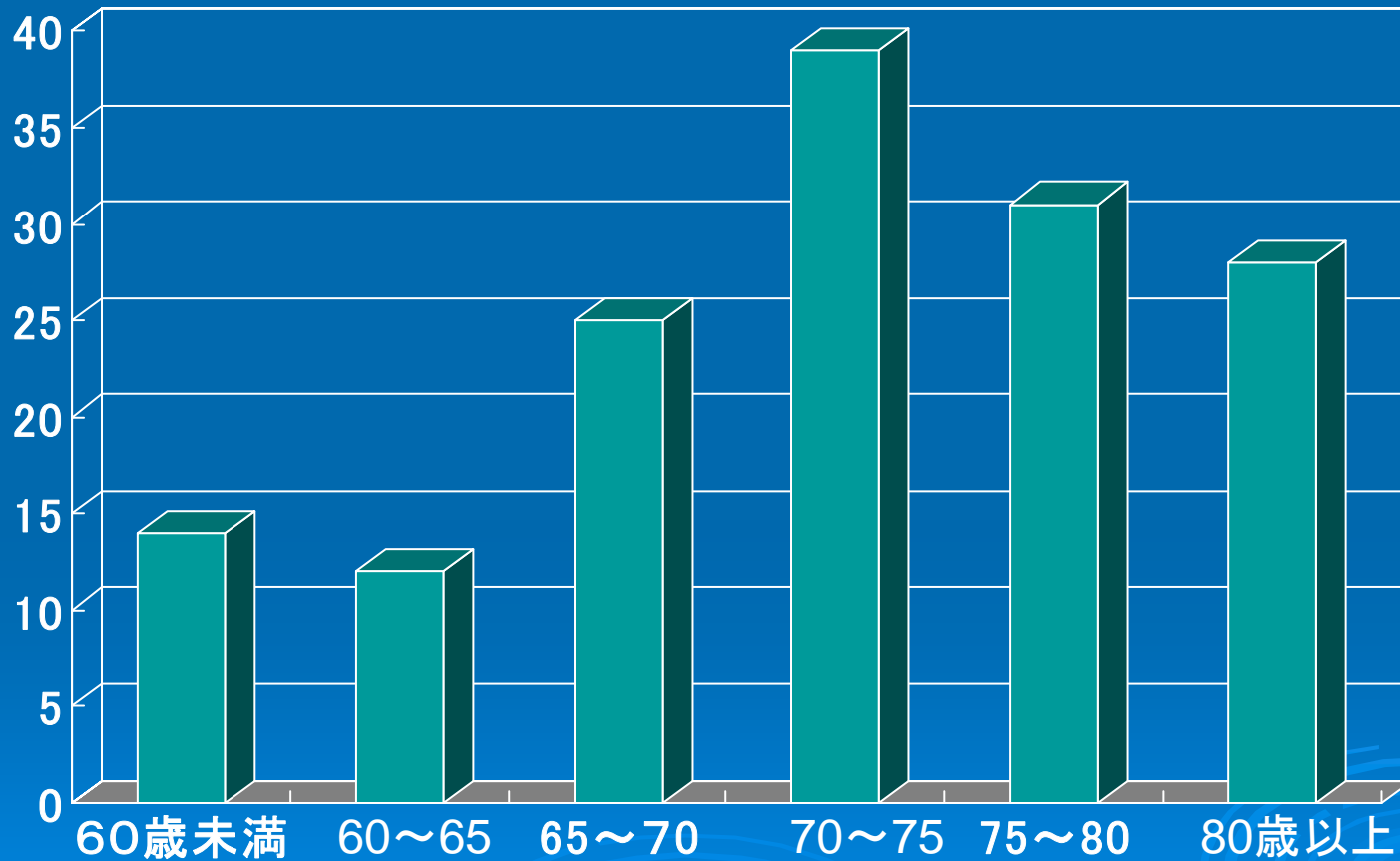
# PSA高値症例

(平成16年3月～17年12月)

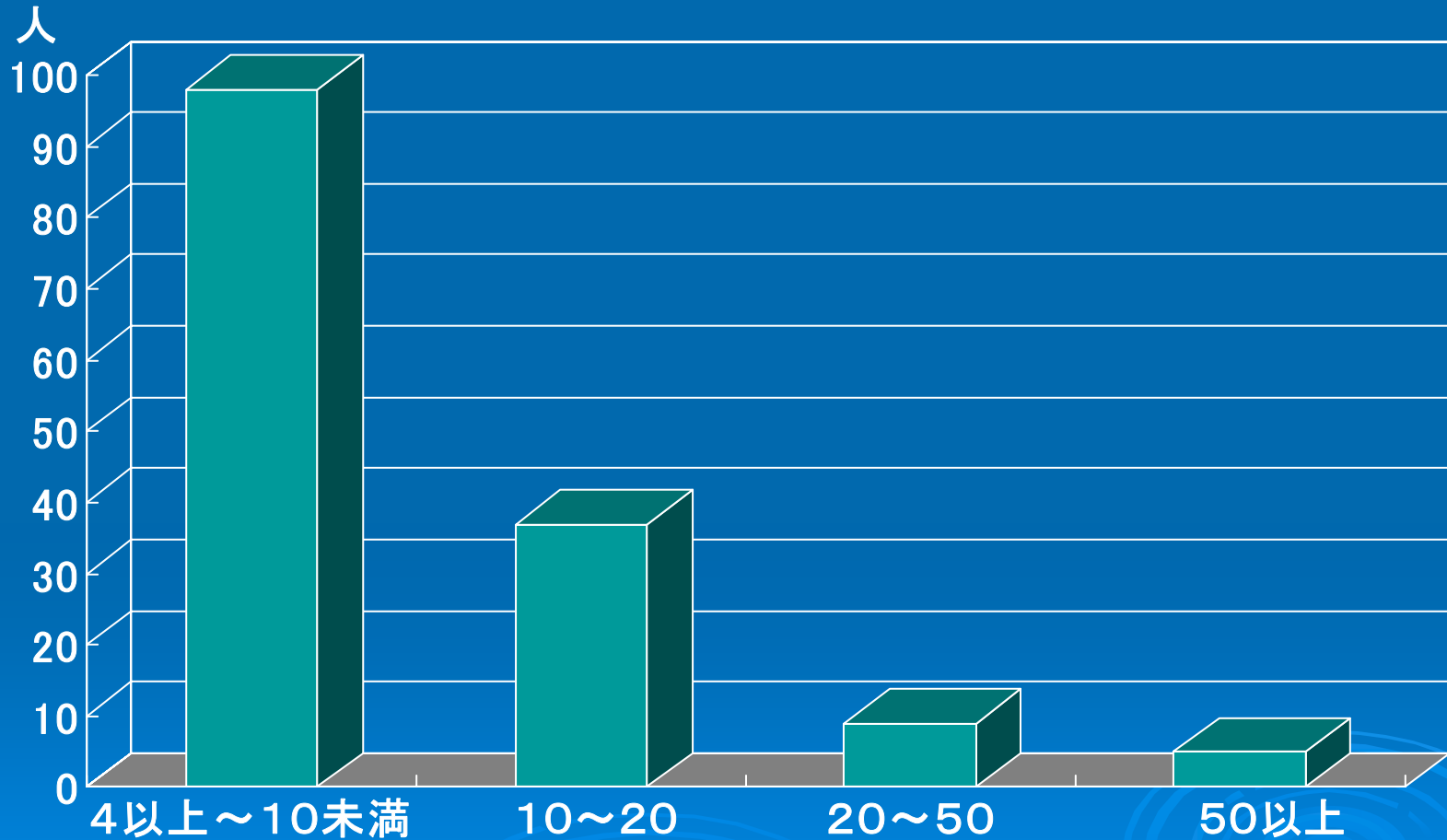
149例の内訳



# 年齢別PSA高値

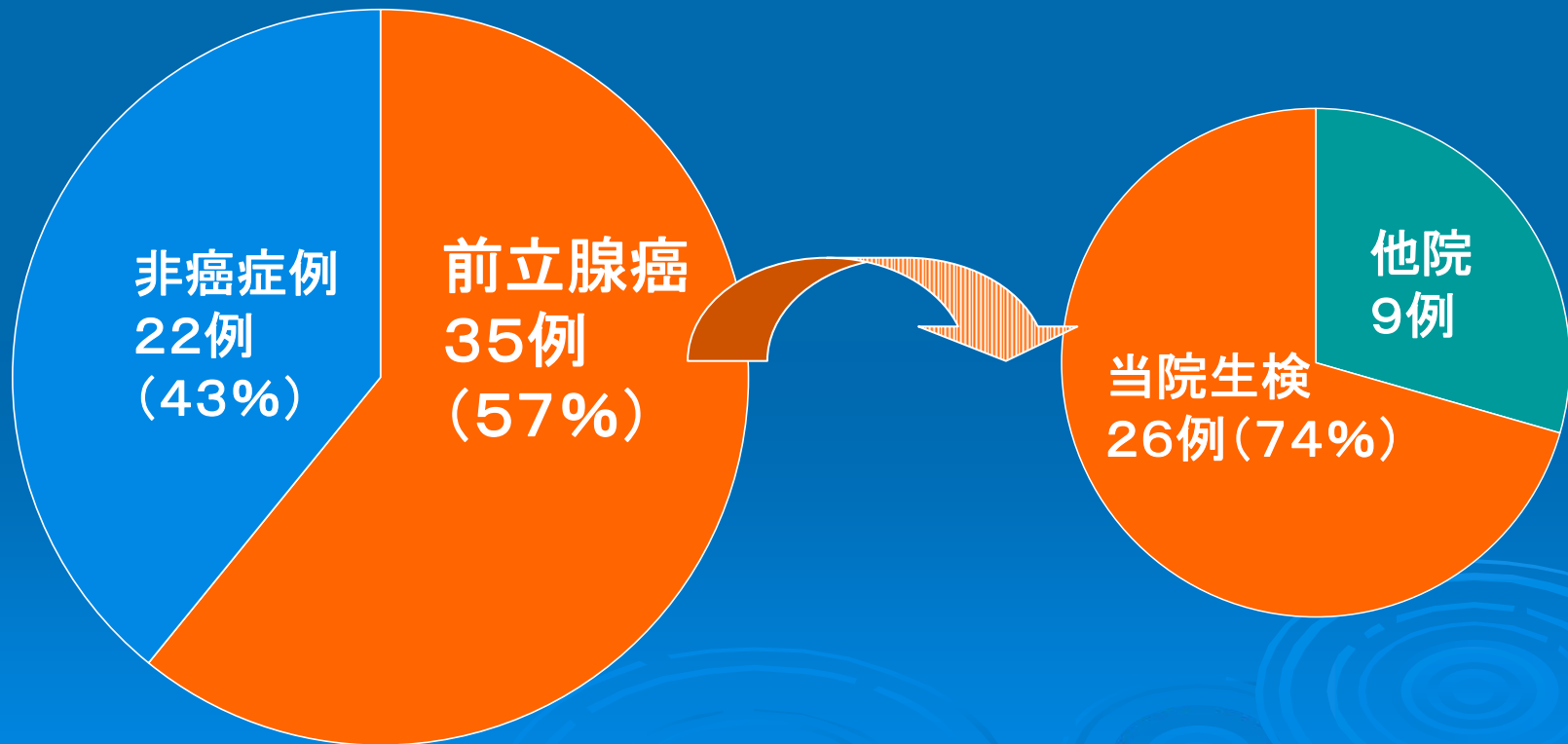


# PSA値別分布



# 前立腺針生検による結果

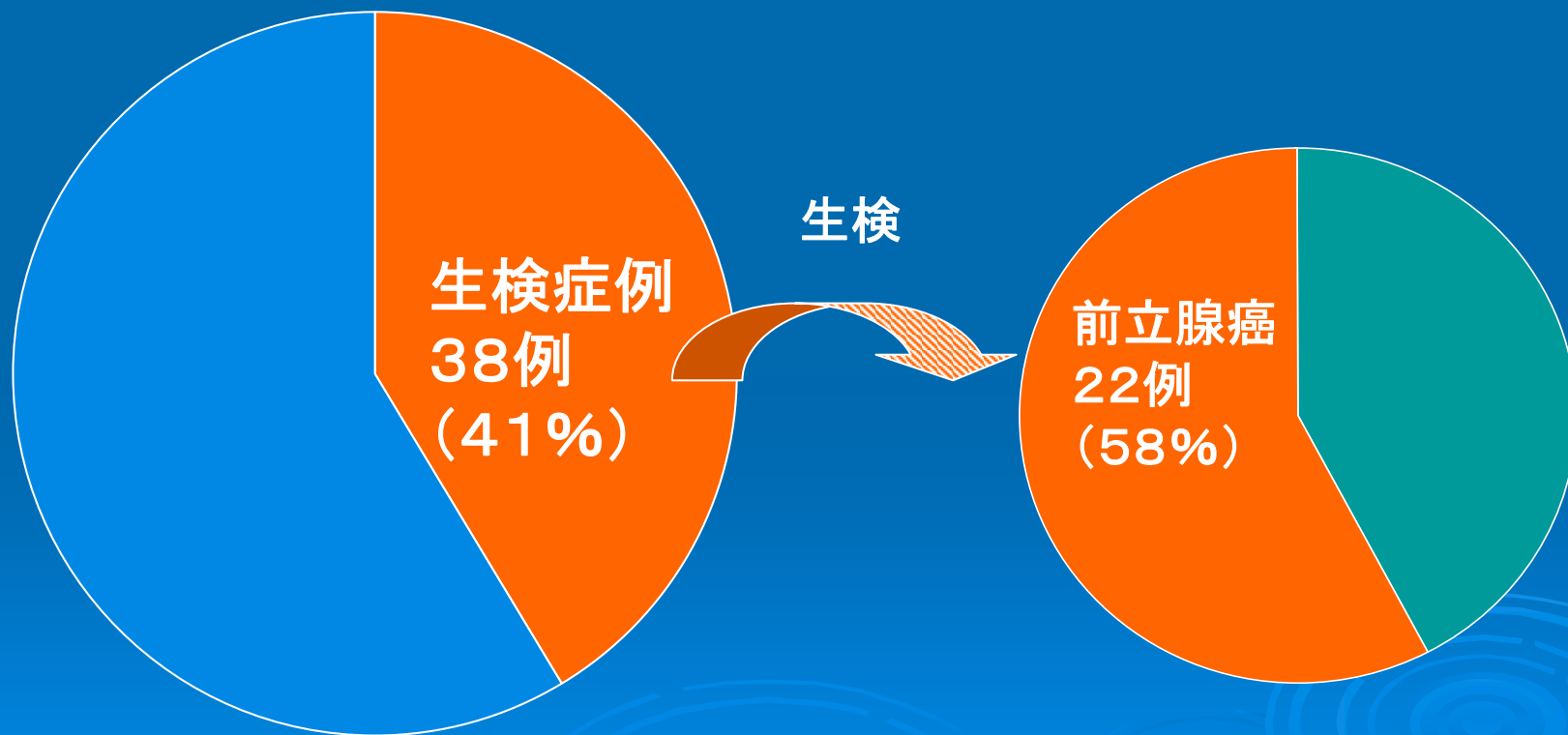
- 全PSA高値149例中61例(41%)で生検実施
- 35例で前立腺癌が発見(全PSA高値23.4%、生検施行例57%)



全生検施行例

# PSA検診紹介例での生検

- PSA検診紹介患者92例中38例で生検を実施
- 22例で前立腺癌が見つかる(33%)



# 前立腺生検の結果

平成16年3月～17年12月

生検施行施設	前立腺癌	非癌	計
当院	9 (25.8%)	26 (74.2%)	35
他院	16 (61.5%)	9 (38.5%)	26
計	25 (41%)	35 (59%)	61 (100%)

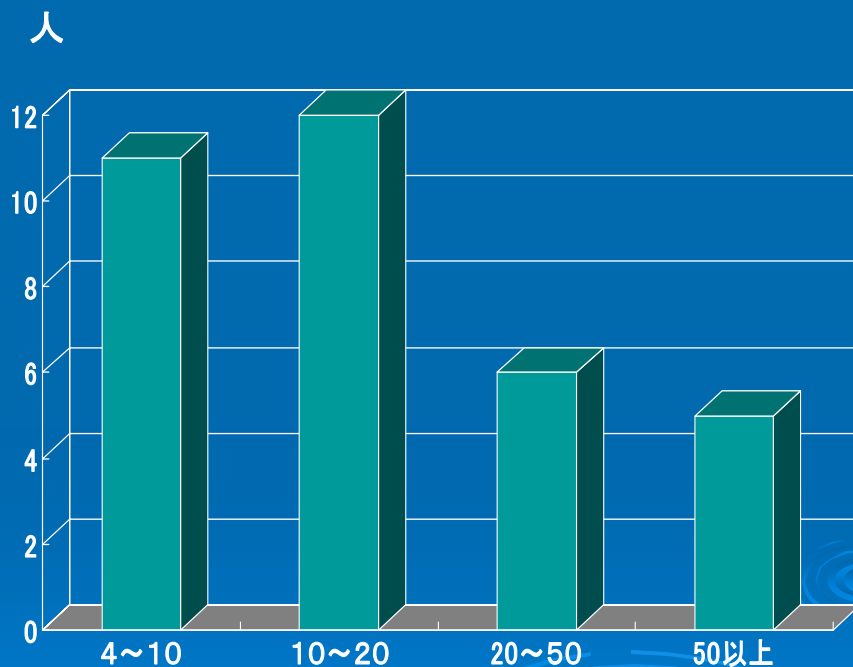
# 前立腺癌患者PSA値、F/T比

	PSA値 (ng/ml)	F/T比
--	--------------	------

平均値 ( $\pm$ SD)	25.4 $\pm$ 31.4	0.20 $\pm$ 0.16
--------------------	--------------------	--------------------

中央値	7.5	0.16
-----	-----	------

初診時PSA (ng/ml)



# 病理組織学的分類 (Gleason分類)

---

Gleason score	6以下	7	8-10
---------------	-----	---	------

---

症例数 (%)	7 (20%)	20 (60%)	7 (20%)
------------	------------	-------------	------------

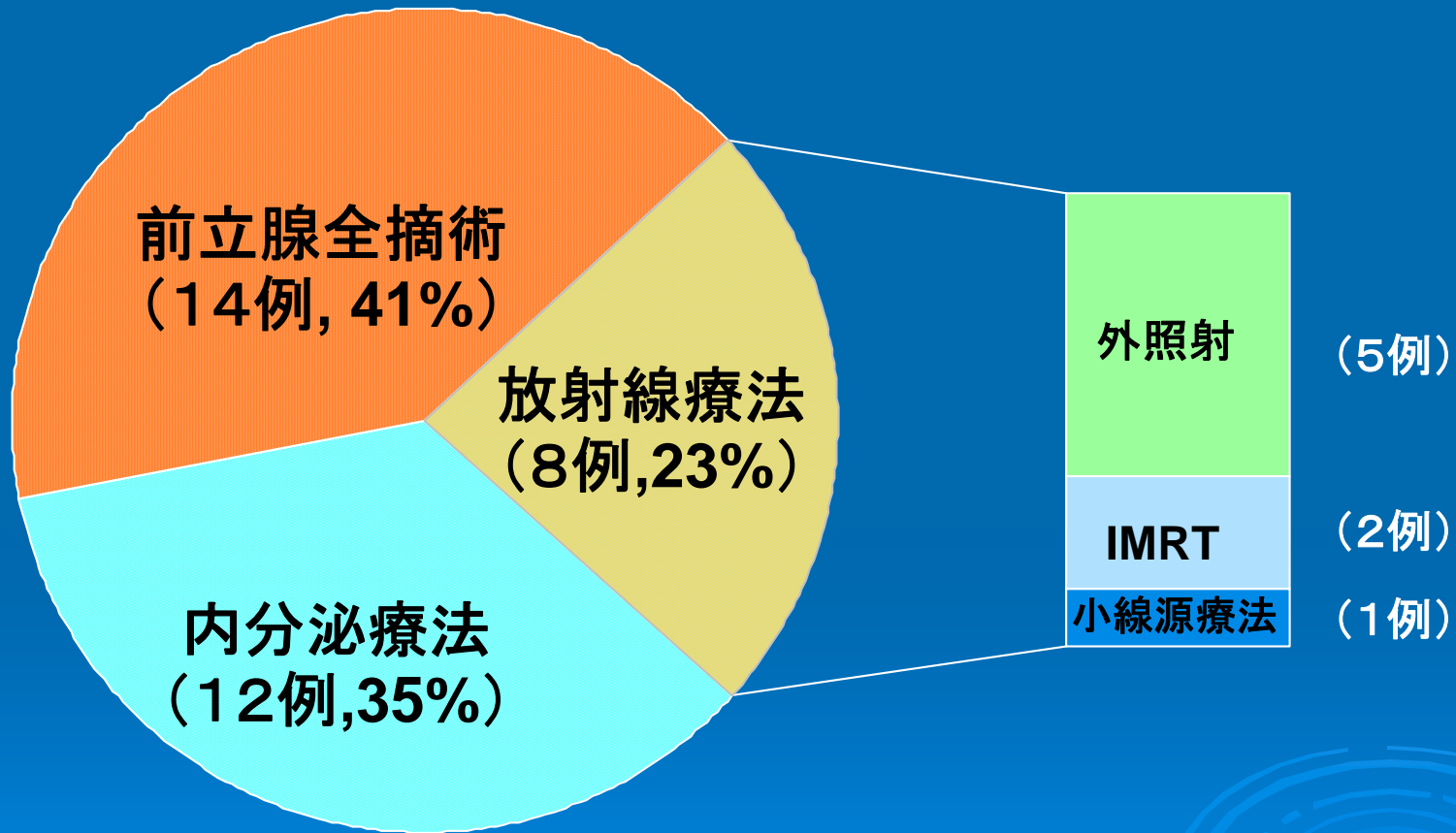
---

# TNM staging system T分類

T分類	T1c	T2	T3	T4
症例数	4	17	9	4

21例(62%)

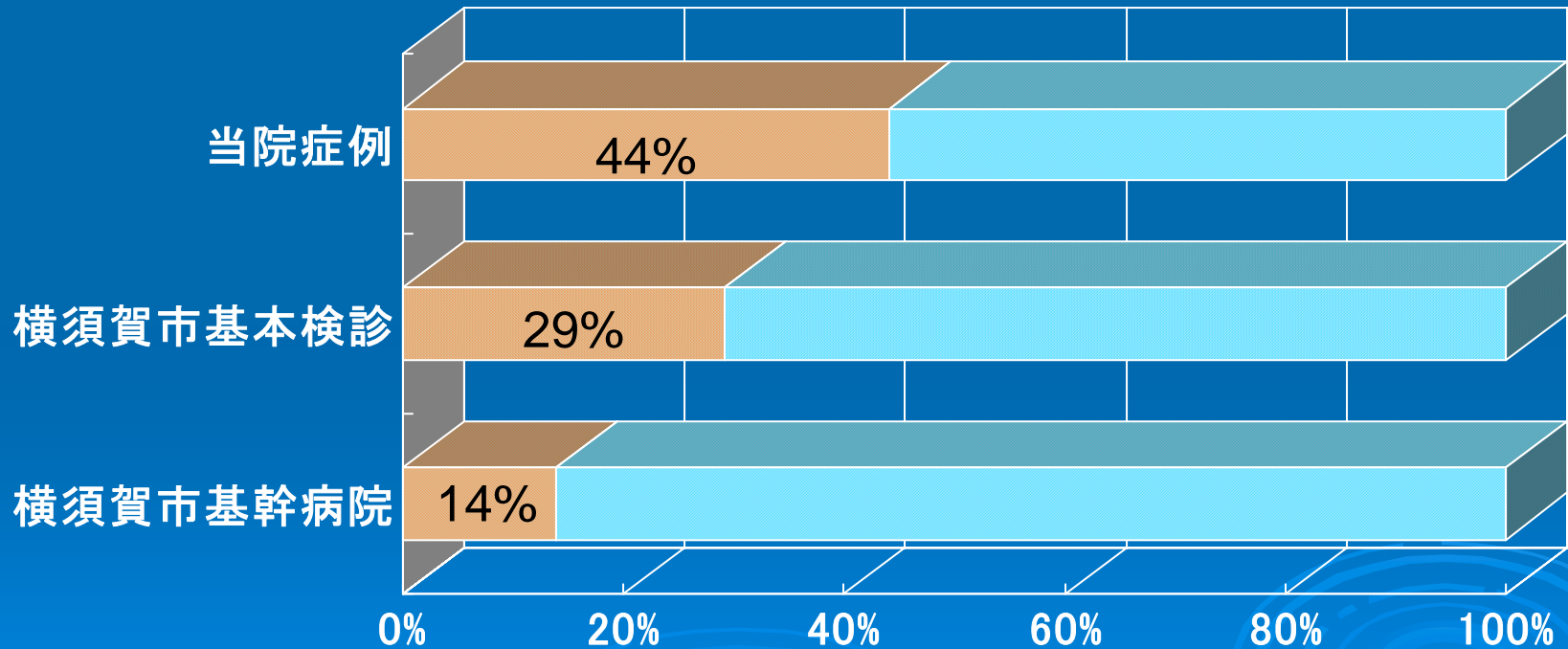
# 治療法別分類



# 根治的前立腺全摘術の割合

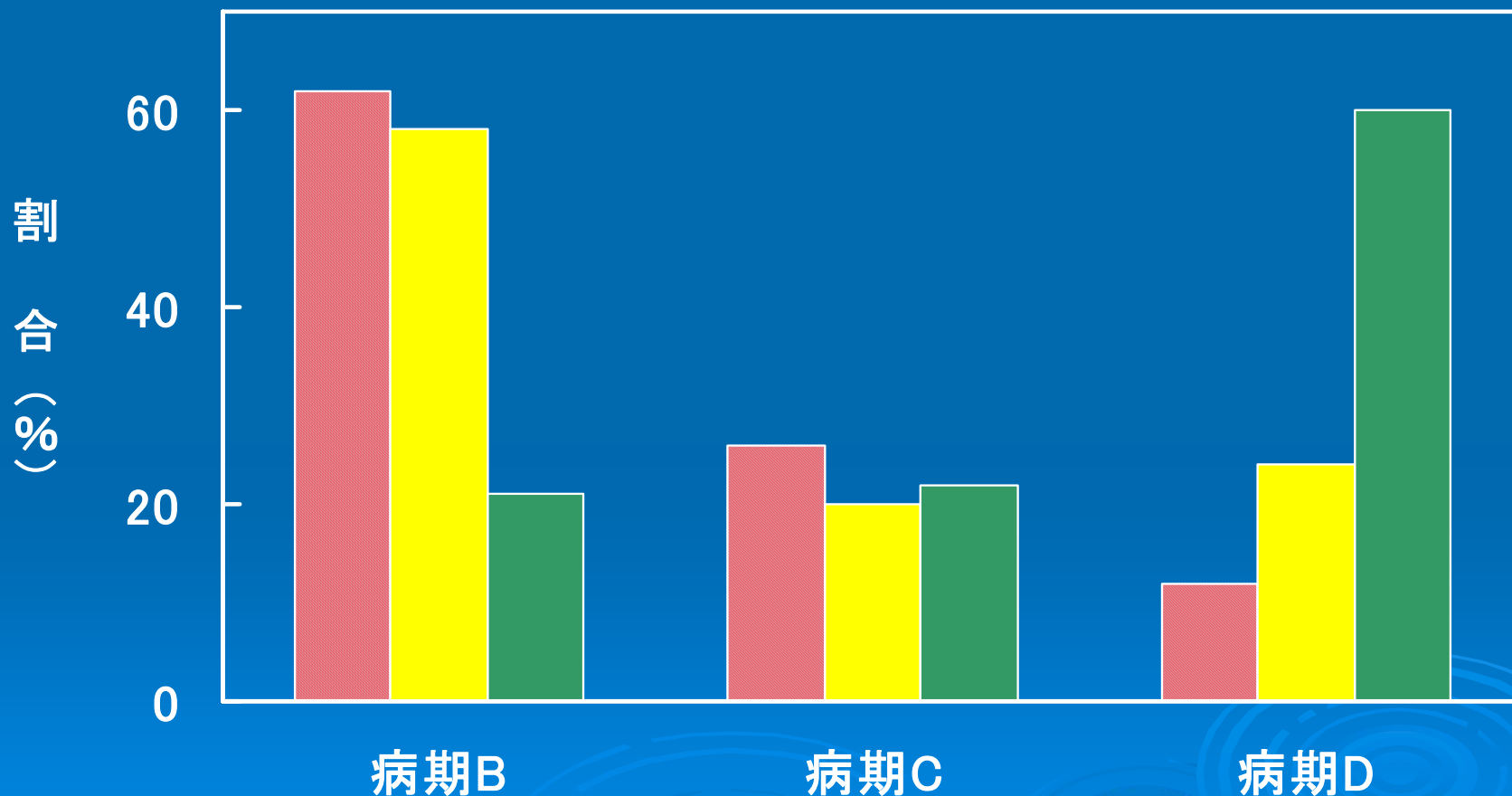
横須賀市基幹病院、PSA検診との比較

■ 手術・IMRT ■ その他



# 前立腺癌の病期分布 (群馬県集検と病院外来との比較)

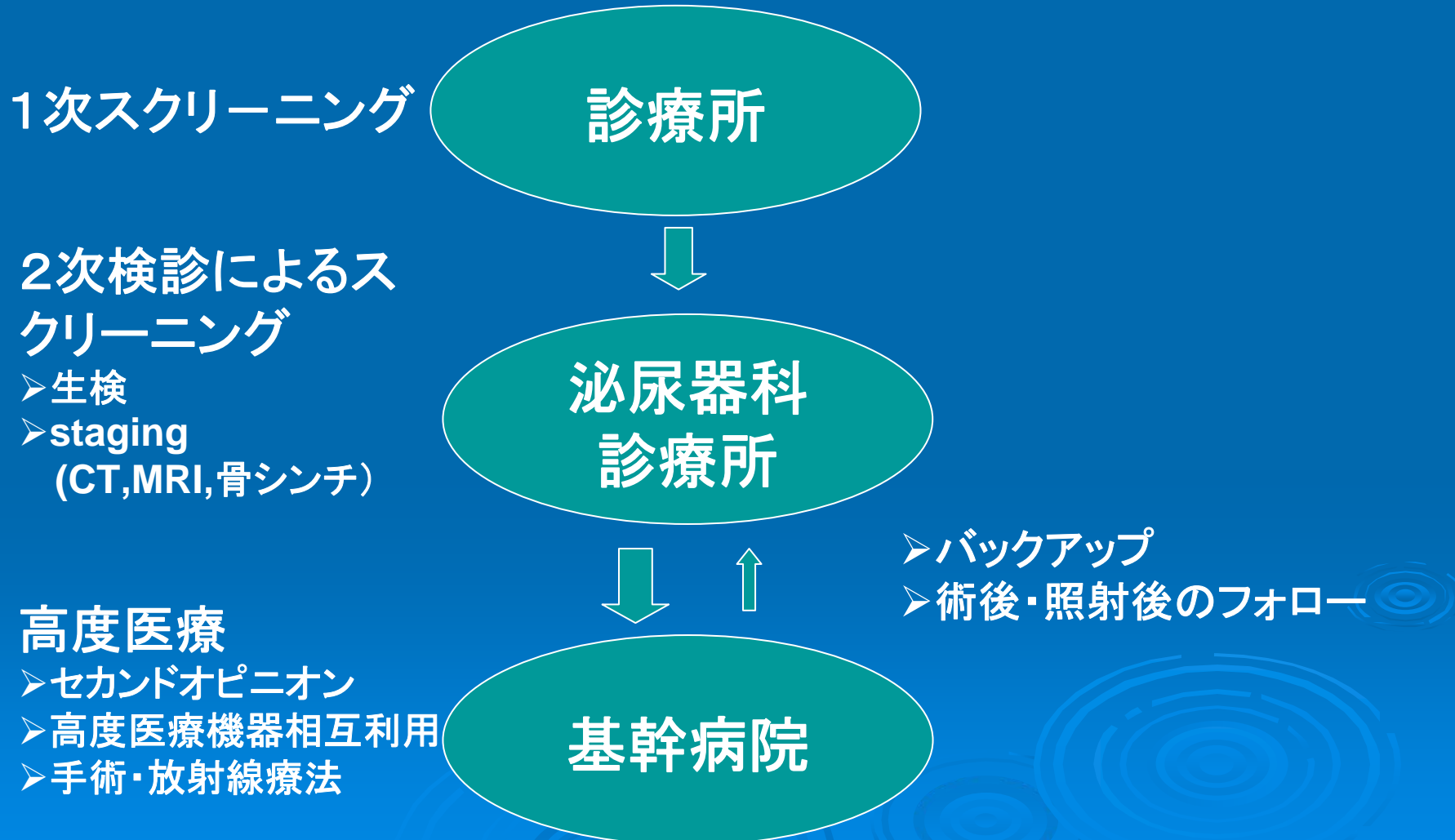
■ 当院症例 ■ 集検で発見 ■ 外来で発見



1988～1991(群馬県下)

今井強一ほか: BIO Clinica, 10(4), 261, 1995.  
たけだ泌尿器科クリニック

# 診診・病診連携による前立腺癌発見 治療の役割分担



# PSA検診と診診・病診連携

- 横浜市の平成16年度PSA一次検診受診者は検診対象者の5.6%(全国平均13%、横須賀市7%)と低かった。当院のPSA高値例149人のうち92人(62%)は近医からの紹介で多くはPSA2次検診あった。
- 生検を61人(41%)に施行し(横須賀市31%)、35例で前立腺癌が発見された。(全PSA高値例の23.4%、生検施行例の57%)
- 局所限局癌(B)の症例が62%と他地区の検診と同じく多くみられた。今後PSA検診受診者数が増加するものと予想されるが、泌尿器科診療所においても早期前立腺癌の発見の役割を担っていく必要がある。
- 基幹病院との病診連携に関しては、病院は高度の医療を提供できるよう役割を分担していく必要がある。高度診断機器の利用が一部の病院でできるようになったが、簡便化をはかって欲しい。生検のバックアップやセカンドオピニオンの充実、手術紹介症例の結果は必ず報告して欲しい。